

東京音楽大学附属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	第3回日本パンフルートフェスティバル - 世界初オンライン開催の取り組みに関する報告-
Title in another language	A Report of the 3rd Japan Panflute Festival -The world`s first festival held Online-
Author(s)	櫻岡史子 (SAKURAOKA Fumiko)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 10, p. 53-62
Date of issue	2021-03-30
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	http://www.minken1975.com/publication/IE_B10202005.pdf

第3回 日本パンフルートフェスティバル － 世界初オンライン開催の取り組みに関する報告 －

A Report of the 3rd Japan Panflute Festival –The world`s first festival held Online–

櫻岡史子 SAKURAOKA Fumiko

日本ルーマニアパンフルート協会主催で、2018年より、日本パンフルートフェスティバルが毎年開催されている。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、12月13日にZoom会議システムを活用しオンラインで開催された。オンラインでのフェスティバル開催は世界初の取り組みである。ルーマニア大使館、モルドバ共和国大使館の後援で開催されたフェスティバルには、世界トップクラスのパンフルート奏者をはじめ、パンフルート愛好家など世界17カ国、74名が参加した。この報告書は、2020年に日本パンフルートフェスティバルの主催者である私、櫻岡史子が実際に体験したことを記録したものである。

キーワード：パンフルート Panflute、パンフルート奏者 Panflutist、
パンフルート教育 Panflute Education ルーマニア Romania、
モルドバ共和国 Republic of Moldova、ゲオルゲ・ザンフィル Gheorghe Zamfir

1. はじめに

東京音楽大学附属民族音楽研究所では、2019年より日本で初めて大学での社会人向けのパンフルート講座が開講され、2020年には、東京音楽大学大学院／附属民族音楽研究所社会人特別講座にパンフルートコースが誕生した。2019年には日本ルーマニアパンフルート協会を設立し、2020年には成蹊大学にパンフルートグループが創設されるなど、国内でのパンフルート教育の場も増え、関心が高まってきている。

日本パンフルートフェスティバルは、2018年より日本ルーマニアパンフルート協会の主催で、毎年開催されている。今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、Zoom会議システムを使用しオンラインで開催された。オンラインでのパンフルートフェスティバルは世界初の開催となる。このフェスティバルには、日本ルーマニアパンフルート協会の名誉会長を務めるラドゥ・ネキフォルをはじめ、世界各国からパンフルート奏者、パンフルート愛好家などが集い行われた。参加者はルーマニア、モルドバ共和国、オランダ、ベルギー、オーストリア、チェコ、フィンランド、ウクライナ、トルコ、イラン、ナイジェリア、アメリカ合衆国、中華人民共和国、中華民国、韓国、シンガポール、日本など、17か国から少なくとも74名が参加した。フェスティバルでは、英語、ルーマニア語、日本語の3つの言語が使われ、パンフルートの歴史の紹介、ルーマニア大使館によるルーマニアの文化や伝統など国の紹介を始め、モルドバ共和国の風景の映像を流し、世界トップクラスのパンフルート奏者の演奏やパンフルート愛好家の演奏などが紹介され、プロのパンフルート奏者からレッスンを受けたり交流の時間が設けられた。

写真提供：日本ルーマニアパンフルート協会

2. 日本におけるパンフルート普及・教育の取り組み

講師：櫻岡史子
言語：日本語、英語

【内容】

2017年に東京パンフルートクラブ SAKURARI が立ち上げられ、江東区豊洲シビックセンターにて初心者が始められる環境を整えた。2018年、第1回日本パンフルートフェスティバルを開催、2019年には日本ルーマニアパンフルート協会を設立し、第2回日本パンフルートフェスティバルを開催、海外プロ奏者によるパンフルートコンサートやワークショップなども開催している。

また、教育活動にも力を入れており、毎年、ルーマニア大使館と連携し、文化紹介の一環として港区や武蔵野市の小学校への授業や学童クラブなどでの出前ワークショップやコンサートなども開催し、未来を担う子ども達への普及活動を行っている。

2020年から成蹊大学のルーマニア交流プロジェクトパンフルートグループが創設された。「ルーマニアの民族楽器に親しみを持つ」「音楽面からルーマニアを知る」「ルーマニア関連のイベントで演奏する」ことを目的に活動しており、現在は、3名の学生がパンフルートの対面・オンライン授業を受けている。



写真提供：日本ルーマニアパンフルート協会

3. ルーマニア大使館よりルーマニアの文化紹介

講 師：Silvia Cercheaza（シルヴィア・チェルケァザ）

言 語：日本語、英語

【内容】

ルーマニアはヨーロッパの東側、バルカン半島の真ん中あたりに位置する。面積は、日本の本土と同じくらいの面積で23万8393平方キロメートルである。首都はブカレストで人口は約2千万人、日本の約6分の1の人口である。宗教はルーマニア正教86.7%、プロテスタント5.3%、ローマ・カトリックが4.3%、その他は3.3%となっている。公用語はロマンス言語に由来するルーマニア語である。

ルーマニアの国土は、トランシルヴァニア山地やカルパチア山脈、広々とした田園、渓谷など手つかずの大自然に恵まれている国である。ドナウデルタは、1991年にユネスコの世界遺産に登録されている。世界最大級の葦の草原が広がり、ドナウデルタで暮らす人々の生活と葦は深いつながりがある。

ルーマニアには伝統的な民族衣装があり、地域によって様々な模様の手刺繍が施されており、色彩豊かで美しい。



写真提供：在ルーマニア大使館

4. 世界でパンフルートを学ぶ学生たちによる演奏

演奏：David Fieruta (デイビット・フィエルタ)

演奏曲：Silviana シルヴィアーナ (V. パンデレスク)

【内容】

デイビット・フィエルタは、パンフルート奏者の父親の影響を受けて11歳からパンフルートを始めた。現在16歳で、ルーマニアにあるディヌ・リパッティ高校のパンフルートコースで学び、数多くの賞を獲得している。2019年にルーマニアのシビウ市で開催されたゲオルゲ・ザンフィルの弟子たちによる国際パンフルートマスタークラスに政府からの助成金を取得して参加した一人である。

演奏曲は、ルーマニア出身のアコーディオン奏者でゲオルゲ・ザンフィルのタラフのメンバーであるヴァシレ・パンデレスク作曲の《シルヴィアーナ》でタラフと呼ばれる小編成のオーケストラと一緒に演奏した。速い動作が必要なパッセージでは、音が明瞭で途切れることのない演奏は確かな技術が求められる。



写真提供：デイビット・フィエルタ氏 メリス・ナズ・ウニヴァー氏

演奏：Melis Naz Ünver (メリス・ナズ・ウニヴァー)

演奏曲：Cicoria ひばり (G. ディニク)

通訳：櫻岡史子

【内容】

2006年にトルコで生まれたメリス・ナズ・ウニヴァーは、4歳からエイディン・ヤバスにピアノを習い始め、8歳からパンフルートを始めた。2016年には、ルーマニアのガエシュティで開催された第2回ゲオルゲ・ザンフィル国際パンフルートフェスティバルで「子どもゲスト」を務めた。同年、アナドル大学国立音楽院のクラリネット学生として受け入れられ、イルカイ・アク教授に師事。多くのコンサートで演奏している。

演奏曲の《ひばり》は、19世紀後半にルーマニアのパンフルート奏者アンジェラス・ディニクが作曲したラウタリ音楽として知られている。

5. 世界のパンフルート奏者による演奏とレクチャー

演奏：Stefan Negura (ステファン・ネアグラ)
 Raluca Patuleanu (ラルカ・パトゥレーヌ)
 演奏曲：Căruița Poștei カルーツァ ポシュティ (Gr. ディニク)
 通訳：櫻岡史子

【内容】

ステファン・ネアグラは、モルドバフィルハーモニーのパンフルートソリスト、教師、作曲家である。1980年4月10日に生まれ、キシナウの音楽リセウムと芸術大学でイオン・ネアグラ教授とパンフルートの勉強を始めた。ヨーロッパ中の交響楽団など数多くのコンサートに参加、モルドバ大統領とともに欧州評議会を訪問し、1994年に北極での国際フェスティバルでモルドバを代表し演奏した。長年に渡り、公社「テレラジオ-モルドバ」の国立交響楽団、モルドバ共和国の国立交響楽団などと協力し、キシナウの国立オペラパレエ劇場、レオポリス室内交響楽団-ウクライナ、ルーマニアの「交通弦楽団」、モルドバ共和国国立室内管弦楽団の人気音楽《Lăutarii》《Joc》《Fluieras》なども担当している。



写真提供：
ラルカ・パトゥレーヌ氏

ダミアン・ルカとシミオン・スタンチュの弟子に、ベルギー在住ルーマニア出身のラルカ・パトゥレーヌがいる。パンフルート奏者で教師である。1990年12月にフォルクローレアンサンブル「Oltul」(30人の音楽家とダンサー)と一緒にベルギーにて、ルーマニア音楽で30回のショーを行い、その後、ブリュッセルのあるレストラン「Le Huchier」で2年間の契約で、週に6回演奏する。1996年から2006年にかけて、ベルギーの1つの音楽学校でパンフルートのレッスンを受け持ち、その後2006年、ベルギーのブリュッセル近くに、私立パンフルート学校を設立した。毎年、ベルギーパンフルートセミナーを開催し、国内外に250名以上の生徒がいる。

演奏曲は、グリゴラシュ・ディニク作曲の《カルーツァ ポシュティ》でパンフルートの二重奏を披露した。今回は竹製ではなく、ローズウッド製の楽器を使用しており、力強い演奏を可能にしている。透明感のある音色は、聴く人を引きつける魅力がある。ゆったりと情感あふれる箇所はビブラート奏法を用いており、速いリズムの箇所は、様々な種類のタンギング奏法、超絶技巧を用いた圧巻の演奏である。

演奏 : David Tin 李濬廷 (デイビット・チン)

演奏曲 : 風土記への道 (櫻岡史子)

通訳 : 櫻岡史子

【内容】

李濬廷は、中華民国のパンフルート奏者、教師、作曲家である。第1回日本パンフルートフェスティバルへの出演を皮切りに、来日した際にパンフルートワークショップやコンサートなど、日本ルーマニアパンフルート協会との交流を深めている。中華民国、香港、シンガポールなどアジアでの子ども達への教育活動を盛んに行っている。透明感のある優しい音色に定評があり、YouTubeの登録者数は1万人を超えている。



写真提供 : 李濬廷

演奏曲は、櫻岡史子がパンフルートのために作曲した《風土記への道》である。この曲は、島根県松江市大庭町にあるはにわロードをイメージして作曲した。はにわロードは島根県立八雲立つ風土記の丘へと続いている。八雲立つ風土記の丘一体は、奈良時代に編纂された「出雲国風土記」のくにびき神話ゆかりの地、意宇郡の中心にある地域で、奈良時代の政治、経済、文化の中心地として国庁、国分寺、出雲国造家ゆかりの神社や寺もあり、文化財の一大宝庫である。日本にパンフルートが伝来したのは奈良時代である。

レクチャー : Andreea Chira (アンドレア・キーラ)

通訳 : ミハエラ シェルブレア・櫻岡史子

【内容】

ルーマニア出身のパンフルート奏者アンドレア・キーラは、ウィーンを拠点に活躍

しており、クラウディオシモーネの指揮の下、イタリアの室内オーケストラ「I Solisti Veneti」として知られている。アンドレアの《四季》コンサートシリーズは、有名なヴァイオリン協奏曲を演奏することにより、パンフルートで古典音楽の世界をより人気のあるものにした。2019年12月にオーストリア文化フォーラム（ÖKF）が主催するコンサートに招待された。パンフルートマスタークラスを開催し、イタリア、チェコ共和国、中華人民共和国、韓国を含む世界中でコンサートを開催している。



写真提供：アンドレア・キーラ

日本パンフルートフェスティバルでは、オンライン上に生出演し、フィンランド出身のパンフルート奏者ステファン・スタンチュ作曲のパンフルート曲のYouTube動画を披露した。また、参加者の質問に答えるなど、ディスカッションの時間を設けた。質問では、「パンフルートの魅力は何か」と問われ、「パンフルートは奏者によって音色が異なることが魅力」と話す。「この数年、パンフルートの奏法技術は大きく進歩を遂げた、今はクラシックからジャズ、ロックまで演奏することができる」また、別の参加者から「演奏で心がけていることは何ですか」との問いには「音を大事にしている、自分のイメージした音とパンフルートの音が一致するようにしている、そこから解釈など色をつけている、一生をかけて研究していきたい」と答えた。また、「体の使い方についてどう考えているか」「頭、手、身体を使っている、自分の性格や自分の特徴に合った使い方になる、それが、正しいか間違っているということはない、一番大切なのは、自分に合った演奏の仕方、好みを探すこと」との話がある。



写真提供：マリアナ・プレダ氏

演 奏：Mariana Preda (マリアナ・プレダ)

演奏曲：Doen Daphoone Maeght

《もっとも美しいダフネが》による変奏曲 (J. ファン・エイク)

通 訳：ミハエラ シェルブレア・櫻岡史子

【内容】

マリアナ・プレダは、アムステルダムを拠点として活躍するルーマニア出身のパンフルート奏者、歌手である。アムステルダムの音楽院で学士と修士号を取得して卒業した。イタリアのミラノのレーベル MAP で多くのアルバムをリリースし、数々の音楽賞を受賞、コンクールやフェスティバルにも参加している。ルーマニア、イタリア、オランダ、イギリス、アメリカなど様々な国で演奏し、ブカレストの国会議事堂で、芸術の分野で海外で最高のルーマニア学生の一人であるとして特別賞を受賞した。

演奏曲は、17世紀(ルネサンス後期)にヤコブ・ファン・エイクによって作曲された曲である。今回使用された楽器は竹製ではなく、銀色の真鍮の管で製作されたものである。ト長調で調律された楽器で3オクターブある。

演 奏：Aydin Yavus (エイディン・ヤバス)

演奏曲：孤独な羊飼い (J. ラスト)

通 訳：櫻岡史子

【内容】

エイディン・ヤバスはトルコ出身のパンフルート奏者、ピアニスト、アコーディオン奏者である。パンフルート界の巨匠ゲオルゲ・ザンフィル、コーネルパナの弟子で、ブカレスト国立音楽大学大学院修士過程を修了している。1991年から現在まで、トルコのエスキュヒル市に国際音楽学校を創設した。トルコで最も有名で最高のパンフルート演奏家である。ヤマハ音楽学校・システム代表として長年活躍し、2000年から2006年までウル



写真提供：エイディン・ヤバス氏

ダグ大学の音楽学部でアコーディオン教師として働いていた。その後、バルカンアコーディオンオーケストラ（5カ国9人のミュージシャン）を設立し、トルコ（イズミル、エスキシェヒル、ブルサ、デニズリ、アンタルヤ）でコンサートを開催した。

第2回日本パンフルートフェスティバルには来日し、コンサートとワークショップを開催し好評を博した。

6. 参考文献

アンドレア・キーラ

<https://www.andreeachira.com/biography>（参照 2021-1-24）

在ルーマニア大使館

<https://tokyo.mae.ro/jp>（参照 2021-1-19）

島根県立八雲立つ風土記の丘

<https://www.yakumotatu-fudokinooka.jp/>（参照 2020-12-12）

日本ルーマニアパンフルート協会

<https://scrapbox.io/panflute/>（参照 2021-1-24）

風土記への道

<https://youtu.be/aZdeu7zso9U>（参照 2021-1-24）

マリアナ・プレダ

<http://www.marianapreda.com/>（参照 2021-1-24）

The Japan Panflute Festival has been held every year by the Japan Romanian Panflute Association since 2018.

In 2020, due to the pandemic caused by COVID-19, we held the festival online on December 13th on Zoom.

This was the first time panflute festival held online in the world.

74 people from 17 countries including the world's top class panflute players, panflute lover, participated in this festival supported by the Romanian embassy and Embassy of the Republic of Moldova in Japan.

This report is a record of what I, Fumiko Sakuraoka, the organizer of the Japan Panflute Festival 2020, experienced.

(本学付属民族音楽研究所講師 日本ルーマニアパンフルート協会会長 パンフルート)